

特集 「子ども一人ひとりが生き生きと学ぶ教育の推進」

— 平成24年度「授業の達人大公開」 —

英語授業所感

～シェフ＆トレーナー～



緑区 尾間木中学校 教諭 伊藤 杉子

11月20日にはご多忙の中、多数の方々に授業のご参観をいただき、ありがとうございました。達人とは私の場合に限っては還暦に達した人の授業公開とお考えいただきたいです。この紙面ではその公開授業も含め、日頃の授業で心掛けてきたことを何点か述べてさせていただきます。

1 授業立案は名シェフになったつもりで！

料理は得意ではありませんが、英語の授業の立案は、常々料理人の感覚に似ていると思っております。そろえた素材（指導項目）をいかにおいしそう（面白そう）に調理し、お客さま（生徒）に食して（勉強して）もらうかに勝負をかける感覚を長年苦しみながらも、楽しませていただきました。

2 P Sは強力な調理器具

指導項目を調理するための器具として、ここ10年ほど、プレゼンテーションソフト（P S）とプロジェクターを便利に使わせてもらっております。P Sの利点は、①板書事項を最短時間で提示できること。②英語の練習に必要な、多数の場面設定を手軽に準備でき、瞬時に提示できること。③そのため、授業をテンポよく進めることができ、生徒の言語練習量を増やすことができること等が挙げられます。また、④P Sの作成の過程で、授業内容を明確に立案することができます。初めて作成する時には膨大な時間が必要ですが、一度作成すると、自分の授業の根幹となり、多少の手直しで長く使用できます。

3 英語の授業は体育のように

さてそのように準備した教材で行う授業は私のイメージとしては体育の授業を目指してまいりました。教師の説明は必要最小限で、生徒が考え、運動をする（英語を使う：聞く、読む、話す、書く）ことが理想だと思っております。その理想を実現させるために、P S使用は分かりやすい場面設定や生徒の興味を引く画像の提供を可能にしてくれます。

また、体育の授業時に基礎体力を付けるrunningがあるように、英語では教科書の音読が基礎体力となると思っております。

4 協力的グループ学習

能力差にバラエティーのある40人学級で、どのレベルの生徒も参加できる授業を実現するには、生徒が協力して行うグループ学習の多用が有効ではないかと考えております。教師の発問に対し、分かる生徒だけが答えられるのではなく、解答をグループでシェアし、いざ答える時は一人ひとりが活躍できるゲーム的要素を取り入れた言語活動を編み出すことも、シェフの腕の見せ所と考えてまいりました。

5 最後に

時代を追って生まれる便利な器具の助けを借りながら、一人でも多くの生徒が楽しく参加できる授業の構成は、私達教師の創造力にかかっていると思います。私の授業が諸先生方の授業実践のヒントになれば幸いです。